

国際協力・BOPビジネス

- ①一般社団法人ACT富山国際協力協会
- ②公益財団法人国際開発救援財団 FIDR
- ③会宝産業株式会社
- ④独立行政法人国際協力機構 JICA

事例① FIDR

実績:①カンボジア食生活指針の提案

→カンボジア保険証から認証を得る

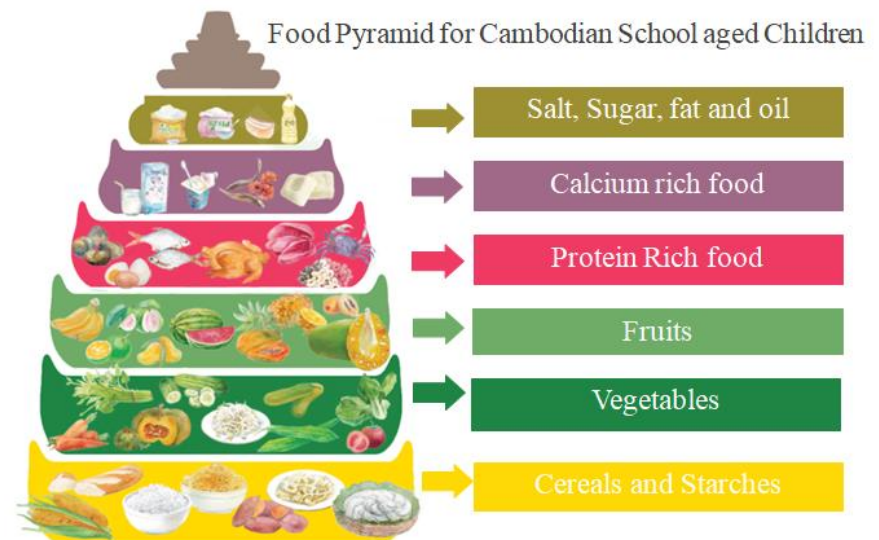
②ベトナム 食糧生産支援

→農業による食料調達とビジネスへの展開

・ 専門家や研究者による現地調査

→現地適合化

課題:自立、資金の配分



事例② ACT富山国際協力協会

実績:カンボジアへランドセルを贈る

→例年1700～1800個のランドセルを寄付

- ・資金調達

→カンボジアへの輸送資金をランドセルの回収費として調達

- ・学校の協力による回収システム

→近隣校で一つの学校にランドセルを集める

課題:少子化への対策、持続的な資金調達

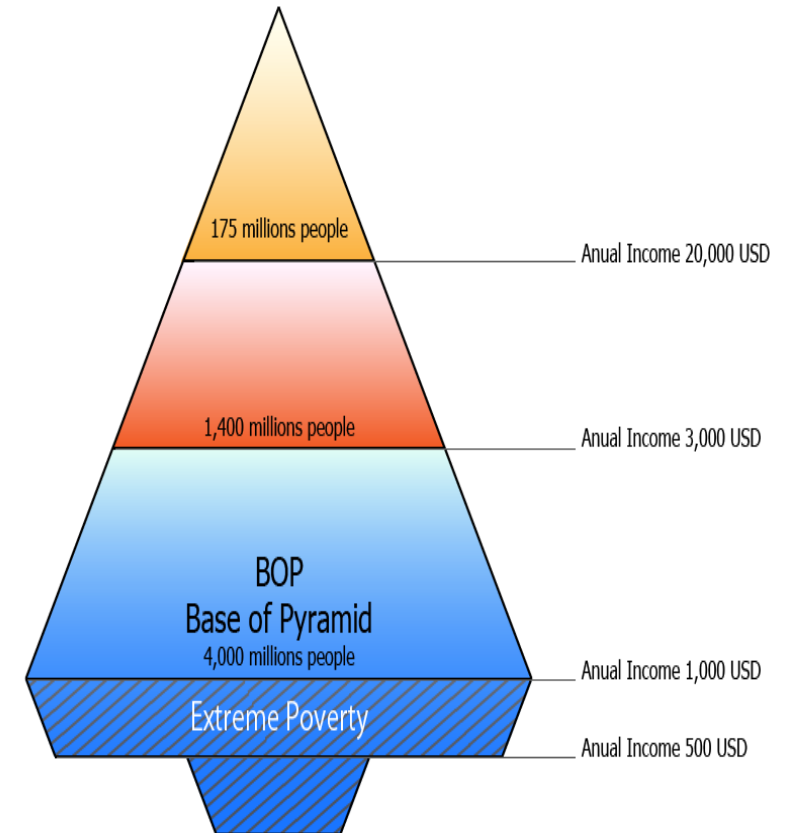
BOPビジネスとは

途上国のBOP層

(年間所得が3000ドル以下の低所得層)

にとって有益な製品・サービスを提供することで、

当該国の生活水準の向上に貢献しつつ、
企業の発展も達する持続的なビジネス



将来的ボリュームゾーン



新市場への挑戦

- ▶ 現在**約40億人**と推定されるBOP層は、将来的にはその多くが中間所得層に上昇することが期待される
- ▶ 2050年までには全世界人口の**85%**を占める途上国人口

- ▶ 将来的なボリュームゾーン市場において、企業各社のビジネスインフラとなる販売拠点やブランド展開、ネットワーク等の確立に寄与



成功例

ノキアの携帯電話

- ▶ シムフリー
- ▶ 一回充電すれば優に一週間は使える。また充電自体も数時間ですぐにチャージ出来る。
- ▶ 懐中電灯機能
- ▶ 非常に丈夫
- ▶ **1000～2000円で購入可能**
- ▶ 通話やメールはそのたびにユニットを購入して携帯電話にチャージして使う。例えば20クワチャ(約5円)や50クワチャ(12.5円)といったとても小さい単位から売っている。
- ▶ **性能的には今から10年以上前の日本の携帯電話にも劣る**

会宝産業

日本車が1990年代に手島に廃棄されており**60万トンのごみ**が出ていた。

→正しい廃棄の仕方ではないため、

資源の無駄であり有害ガスが発生して環境に悪い

現在は規制されているが海外ではまだ法整備が進んでおらず昔の手島のような状況

→日本人が作った日本車は

日本人が責任をもって処理すべき

→日本車のニーズは海外にもあった



<やったこと>

- ▶ いわゆる静脈産業と言われている車の再資源化、リユース、リサイクル
- ▶ 途上国に流通している日本車の処理
- ▶ 途上国で車の排気や有害ガスが与える環境への悪影響についての教育・研修
- ▶ 途上国5カ国と協力して車の解体処理についての法整備
- ▶ 国内で解体した車の部品の輸出

<実績>

- ▶ 中小企業初のビジネス行動要請（BCtA）加盟
- ▶ 「KRAシステム」、「IREC」の開発
- ▶ アラブ首長国連邦で世界初の中古パーツオークション
- ▶ 一般財団法人船井財団グレートカンパニーアワード2014
「勇気ある社会貢献チャレンジ賞」受賞
- ▶ SDGsビジネスアワード2017「エコシステム賞」受賞

今後の課題

▶ 途上国では環境に配慮することよりも今を生きていくことの方が重要だと考える人が多い。

▶ BOPビジネスの成功とは何か。

ただ支援するだけでは利益は出ないためどのように利益を出していくのか。

▶ 中小企業ではBOPビジネスに費やす資金が限られている。



BOP実施のメリット

- 顧客にポテンシャルがある
→中核層になれば将来的に利益が上がる
- 企業のブランド向上
- ビジョンに沿った利益を追求することができる

BOP実施のデメリット

- ・ 対象層の所得の低さ
→短期的な利益につながらづらい
- ・ 現地のニーズ把握の難易度、コストが高い

今後の課題

経営層レベル、感度の高い企業には広がっているが、
実務レベルや中小企業まで認知度が広がっていない
→BOPビジネスをより知ってもらおう

企業単独ではできないことが多い
→JICAが支援しサポートしていく体制をより拡大していく